

変革の時代を乗り切る創造型経営とは、考える人集団の形成にある  
— 命の輝きを取り戻そう

八方塞がりの経営環境から抜け出すには、社員一人一人が、新しいステージにいかなければ、道は開けない。

1 会社の経営計画書は、人を動かす明快な言葉で書かれていますか

点検

- ① 方法不明の抽象的な言葉になっていませんか
- ② 目標数値への達成方法が書かれていますか。
- ③ 心を動かす言葉ですか

対策

- ① 人間が本音で考えていること、心底やりたい気持ちであることを表現する。
- ② 「全身から出る言葉」とは、自分の身体が要求することを自分がしっかり把握できること。
- ③ 身体と意識を一体化すること。
- ④ 行動に悩みが無いこと。(行うべきことが、心身一体で理解しているとストレスは生じない)

(例) 社是・経営理念・行動指針は何のためにあるかを明確にします。

(1) 社是とは、当社に勤務する社員の心の置所です。

(例)

- 1. 時代の流れを感じ、これに合った方法を実行します。
- 2. 地元と協調し地域の繁栄を通じて社会に貢献します。
- 3. 家族の生活基盤を安定させるために社員一致で利益を創出します。
- 4. 自由に聞き合い教え合う職場を作ります。

(2) 経営理念は、お客様に提供する当社の姿勢です。

(例)

- 1. お客様の要望を知り、信頼される製品を提供します。
- 2. 競争時代、情報化時代にマッチした知識・ノウハウを積極的に取り入れます。
- 3. 社員は、常に前向きに、意識向上を図り、全社あげてすばやく対応します。
- 4. ムリ、ムダ、ムラのない健全経営に務め、顧客・株主の信頼に応えます。
- 5. 工事は、人にやさしく、事故の起きない、施工を実践します。

(3) 行動指針は、お客様に接する当社社員のあるべき姿です。チームプレーするための約束です。

- (例)
1. 建設行政及び、業界の動きを感じ、対応できる行動をします。
  2. 当社製品を自信をもって推奨できるように、知識を持ちます。
  3. 常に先端をいく製品提供の為、品質向上に努めます。
  4. 最良の状態でお客様にわたるよう品質の維持・安全に注意しています。
  5. 優れた企業人、社会人に成長するよう自己研鑽に励みます。
  6. 会議・会合は緊密な連携と活発な論議を通じて、課題の解決を図ります。
  7. 問題の解決は、相互の理解信頼と、一致団結で遂行します。
  8. 上司は部下の課題達成と意欲増進に協力します。
  9. 社員は、常に改良改善6Sを実行します。
  10. 社員は報告、連絡、相談を徹底します。

## 2 社員がモノを考え主体的動ける状況を作っていますか

( 数字をもとに社員にハッパをかけても、これで出来る社員は数少ない )

### 方法

- i ものを考え社員が主体的に動ける状況を作ること。人間としての生産性を上げること。やってみようという気持ちを自覚させること。
- ii 人間の生産性を上げる方法とは  
一人一人の命の重みを感じ取り、その視点で社内運営に取り組むこと。  
また、人間を人間として「受容」すること。  
「受容」される実感が相手に通じると、相手はある種の「癒し」を感じ、これまでにないことを考えたり、やってみようという気持ちになる。

## 3 考えるとは、その真の意味を知っていますか。

- i 考えるとは、  
知識やノウハウを集めて、これらの中から答えを見つけることですか。  
過去、学校でも我々は、考えることを学びましたか。
- ii 誤解  
学校教育は、知識の段階的な習得の場。また、社会人になってからの各種の研修「能力開発」「活性化セミナー」も意識的な知識のインプットです。
- iii 真の考えるとは、  
自分というものを掘り下げ、自分が本当に考えていること、自分が望んでいることを明確にすることなのです。
- iv 考える人間になる方法
  - ① 自分を知ること  
自分を知ることによって、複雑な問題解決に向けてのエネルギー沸いてくる。  
⇒ (方法1) 言葉で自分を考えること  
子供の頃の自分、辛い思い出や楽しい思い出など自分に関するあらゆること、また、仕事や人生についての考え方、希望、欲求、今やっていることが生きていく上でなぜ必要か、どうしたいと思っているのかを文章で書いてみよう。

- ⇒ (効果1) 自ら文章で整理すると、その作業を通して、これまで混沌として深い闇間に沈んでいた“知られざる自分”が見えてくる。  
作業を通して、自分の進むべき方向がはっきり見えたら、あなたの主体的な創造の芽が生まれたといえる。
- ⇒ (方法2) 幼児期の辛い体験が今の自分の性格を左右している場合がある。これを受け入れ、これを乗り越えて来た自分を誉めてやる。自分は、社会から求められているのだと暗示をかける。
- ⇒ (効果2) 偏った親のしつけ、学歴偏重、運不運と世の中は、マイナス要因が多いので消極型人間・惰性方人間が自然と多くなるのは当たり前である。これらの人に創造性を期待することは難しい。しかし、積極人間に転換したら黙っていても創造性は付いてくる。

## ② 創造性を生むこと

創造するとは、何もないところから何かを生み出すことです。体内から新しいエネルギーが生まれるともいわれます。ある人は、昆虫の脱皮に似て、何か新しい上位のステージにあがる感じともいわれます。

「悩みと日々問題解決の自縄自縛の状態から抜け出す方法」

⇒ (方法) 創造できる生理的な環境をつくる。

### i 悩みの経路と影響を明らかにする。

自分の悩みや苦しみがどこから来ているのか、自分や家族の人生にとってどれぐらいの影響を与えるのか、客観的に整理して書いてみよう。

### ii 非日常的生活環境をつくる

仏陀は、ヨガ・断食の難行苦行を重ねたがそれだけでは悟りに至らず、菩提樹の木の下で、自分の性格の弱さまたは暗さを素直に受け入れることによって悟りを開いたといわれている。

皆さんも世俗を離れて、森林の小川のせせらぎを聴きながら、自然に共鳴する自己の「命」の尊さと感じよう。そして、生き生きとしていた子供頃を思い出そう。そうしたら何かが見えてきます。

### iii 自分について書いてみよう。

書くことは単純に過去を整理するだけでなく、それで人が素直になれる。ありのままの自分を受け入れ、ありのままを認識することで次の展望は開ける。自分を知って逆に行き詰まるという人がいれば、その人は自分に素直でないことに気づかなければならない。

## ③ 創造性を開発すること

「自分の中に情報をしっかり整理し選択する能力を身につけること」

⇒ (方法) 自分を知り、この先何をすべきか、どう生きていくのかが解ると必要な情報だけが残る。

「意識と体の一体化で、現在の瞬間をビビッドに感じること」  
感動型人間を意識しよう。

⇒ (不感動型)

人の行為行動は、何事かをなした後の結果であり、見えているのはすべて過去の事である。「未来を見ていると思っても、実際は過去の行動パターンの中で“計算”して未来をつくらうとしているだけのことが多い」

「意識」と「体」がバラバラの時は、現実の自分は今を生きているのが、「意識」の中では絶えず「体」行った過去を見ている。

(例) やっぱり思ったとおり上手くいかなかった。出来なかった。ダメだった。(悲観的意識) 等と、体を動かすと同時に、やっぱりダメだの意識が自分を見ている感じを体験したことはありませんか。

⇒ (感動型)

「意識」と「体」が一体になっていると、現実の行為と感覚意識が連動する。これをビビッドに感じるという。

(例) 失敗や上手くいかない現実を見つめながら、既に次の方策を意識している。現実の行為体験と同時に、新しいビジネスモデル等がイメージできている。閃(ヒラメ)く。つまり、自己が到達すべきターゲット(目標)が、定まっていると意識の下の潜在意識に刻み込まれ、日々の体の動きを掌る精神力に大きなパワーが生じ、万一予想に反した場合でも挫折することなく、強い次への挑戦力が生まれます。

④ 創造性を発揮すること、そのためには、

- i 知識と経験に振り回されない、チャレンジする素直な自分を意識すること  
過去に経験が無いからできない。前例が無いからできない。という過去の経験に呪縛されては、創造性を発揮することはできない。
- ii 前向きに仕事をする。過去の生き方や状態に縛られるのではなく、“今”を軸にどう行動するかを考えて実行すればよい。
- iii 現象にこだわることなく、あるがままに受け入れること。  
自分に素直になれば、合わない人でも受け入れられる。これを「受容」という。  
必ず相手は、「癒し」を感じ、わだかまりは消滅する。  
人間関係で悩む人へ、考え方を硬直させてはいけない。柔軟に素直に自己の方向を変えることだ。

⑤ 次の場合は、絶対に創造性が発揮できない。―― 要注意

- ii 自己に、消極的・暗いというイメージ認識があると他人もそう思っていると自覚すること ――― これも創造性を発揮することはできない。
- iii 「じっくり型」とか単に慎重なだけなのに、上司や他人から消極的・暗いというイメージをあたえている場合も要注意 ――― これも創造性を発揮することはできない。

その改善は、簡単だ！

笑顔・明るい声・真剣に相手の話を聞く・自分のことをオープンにする。

そして、大切なのは健康的であること。

⑥ 自己実現すること

組織の人間であっても、個すなわち独自性に目覚めた人でないと、自己実現は不可能である。

上司の指示に従っている人やなんとなく与えられた仕事だけをこなしているだけの人、右に習への人では、自己実現でなく単なる自己表現にすぎない。

⑦ 命を癒すこと

生命の誕生を思い出してみよう。

生後間もない赤ちゃん表情はどうだろうか、自分の子供を思い出してみよう。

どの子もある種の光を感じないか、見ているこちらに「癒し」の心を感じないか

この「癒し」の感じを「生命感応」という。まさに生命は、単なる細胞結合により形成された肉体に、生まれる前のある時点で、宇宙にある気のエネルギーが入魂するという。赤ちゃんを波動撮影機で写すとまさに、全身から赤い波動がでていう。だから赤子とは、よく言ったものだ。

しかし、この赤いオーラは、歳とともに変化するという。波動が弱くなるともいう。その原因は、社会の影響特に両親の影響が大であるらしい。子供対して、人に迷惑をかけてはダメ、勉強しないとダメ、偉くならないとダメなど、あーしてはダメ、こうしてもダメの抑圧が、成人に至ってかなりの差につながるという。

⑧ 会社とは

会社は、人と人、命と命の集合体である。これらの集結が企業風土になっている。したがって、元気の良い企業とは、創造性の高い人の集団である。

⑨ 経営者とは（リーダーとは）

大局的な目標を定め、そこに集う個人個人の命の輝が最大限に発揮できる環境を整備することである。

⑩ 企業の使命

顧客も人・命である。企業であるかぎり利益を上げる必要はある。しかし、それだけではない。我々の商品を買ってくれる人たちが、商品を買ってよかったと心から思い、それによって会社が正当な利益を得、会社に関係するすべての人たちも幸せになれるように働くことこそだいじなのではないか。企業経営は、人間の生き方そのものである。

参考文献 斎藤忠光著「癒しの理論」安岡正篤「人物を創る」「論語の活学」「運命を開く」